

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第 4 四半期(2019年1-3月) 調査結果》

1. 調査期間 2019年3月4日～19日

2. 調査対象 会員 4 2 企業に調査票配布 (回収34企業 回収率80.9%)

	製造	建設	卸売	小売	サービス
調査対象	12	9	4	8	9
有効回答	11	8	3	6	6

3. 調査項目 今期(2019.1~3月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

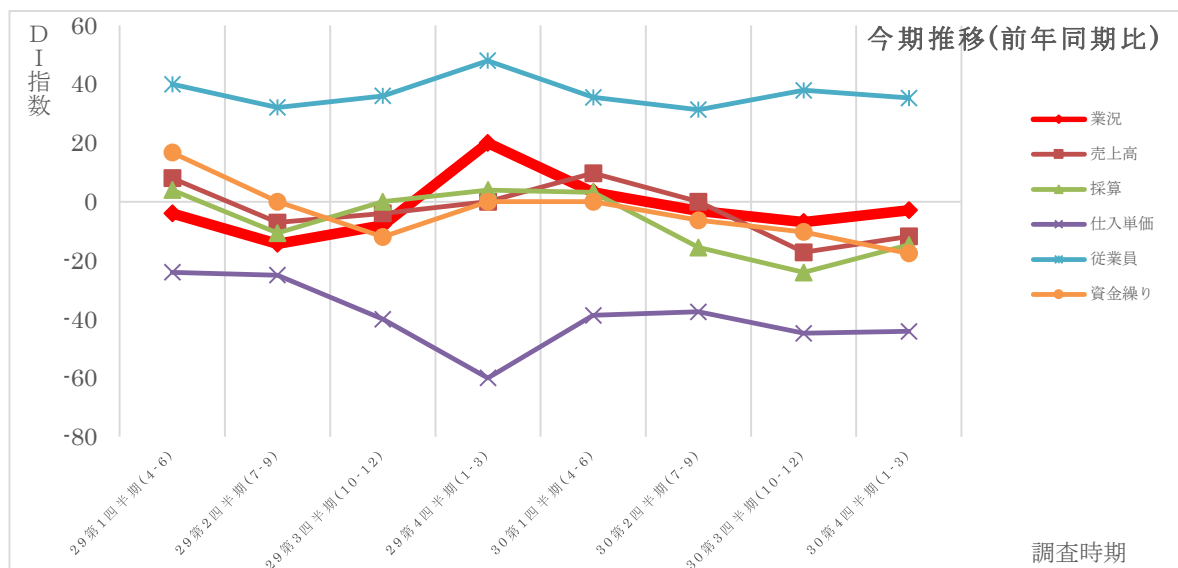
※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

4. 全産業(DI指数分析)

業況は4期ぶりに改善、先行き(来期)は悪化を見込む。

業況DI▲2.9(前期比+4.0ポイント改善↑)、売上高DI▲11.8(前期比+5.4ポイント改善↑)、採算DI▲14.7(前期比+9.5ポイント改善↑)、仕入単価DI▲44.1(前期比+0.7ポイント横ばい→)、従業員DI35.3(前期比▲2.6ポイント悪化(人手不足感減少)↓)、資金繰りDI▲17.6(前期比▲7.3ポイント悪化↓)。

先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲8.8(今期比▲5.9ポイント悪化↓)。売上高DI▲14.7(今期比▲2.9ポイント悪化↓)、採算DI▲20.6(今期比▲5.9ポイント悪化↓)、仕入単価DI▲50.0(今期比▲5.9ポイント悪化↓)、従業員DI35.3(今期比+0ポイント横ばい→)、資金繰りDI▲17.6(今期比+0ポイント横ばい→)となった。



5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

製造業は、業況▲15.9ポイント悪化↓。売上高▲34.1ポイント、採算▲18.2、仕入単価▲1.1ポイント、従業員▲29.5ポイント、資金繰り▲14.8ポイントの悪化。

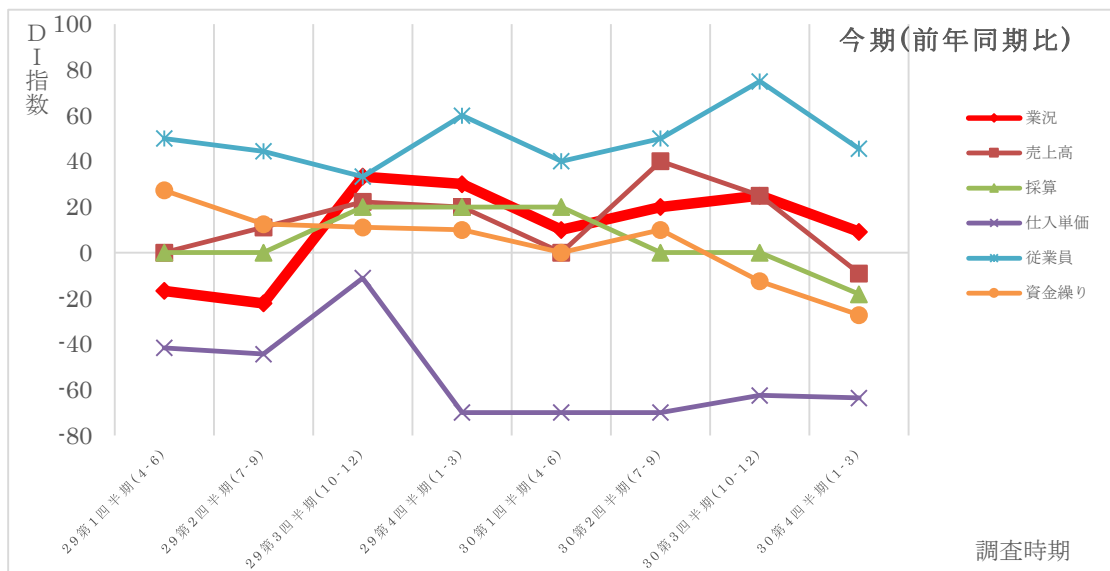
建設業は、業況+4.2ポイント改善↑。売上高+12.5ポイント、採算+12.5ポイント、従業員+50.0ポイント改善。仕入単価▲25.0ポイント、資金繰り▲8.3ポイント悪化。

卸売業は、業況+0ポイント横ばい→。売上高+33.3ポイント、仕入単価+66.6ポイント改善。採算+0ポイント、従業員+0ポイント、資金繰り+0ポイントの横ばい。

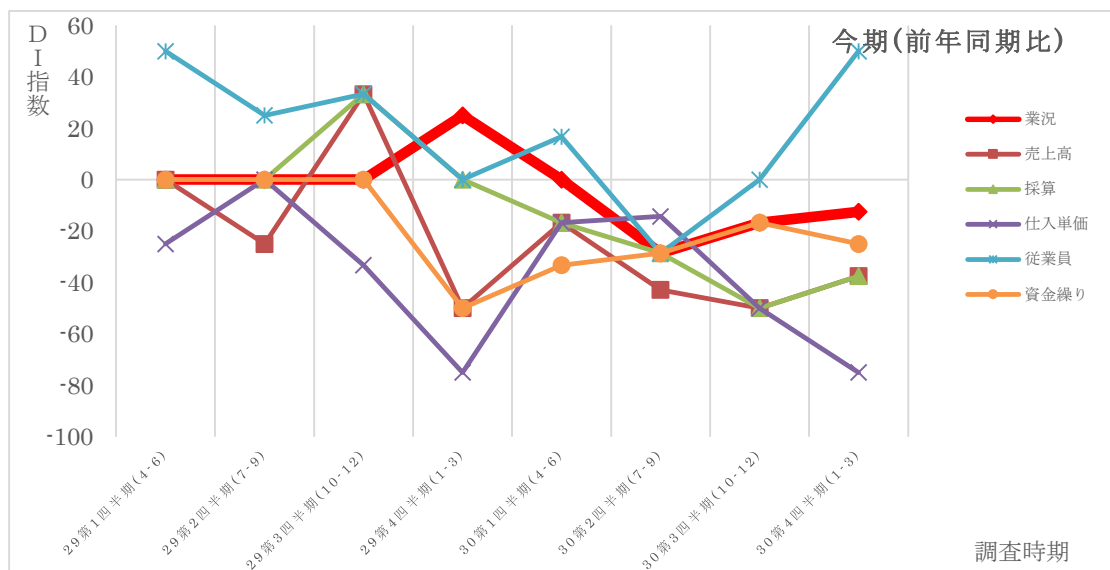
小売業は、業況▲4.7ポイント悪化↓。売上高▲2.4ポイント、採算▲19.0ポイント、資金繰り▲33.3ポイント悪化。仕入単価+9.6ポイント、従業員+2.4ポイント改善。

サービス業は、業況+33.3ポイント改善↑。売上+56.7ポイント、採算+90.0ポイント、仕入単価+3.3ポイント、資金繰り+36.7ポイント改善。従業員▲43.3ポイント悪化。

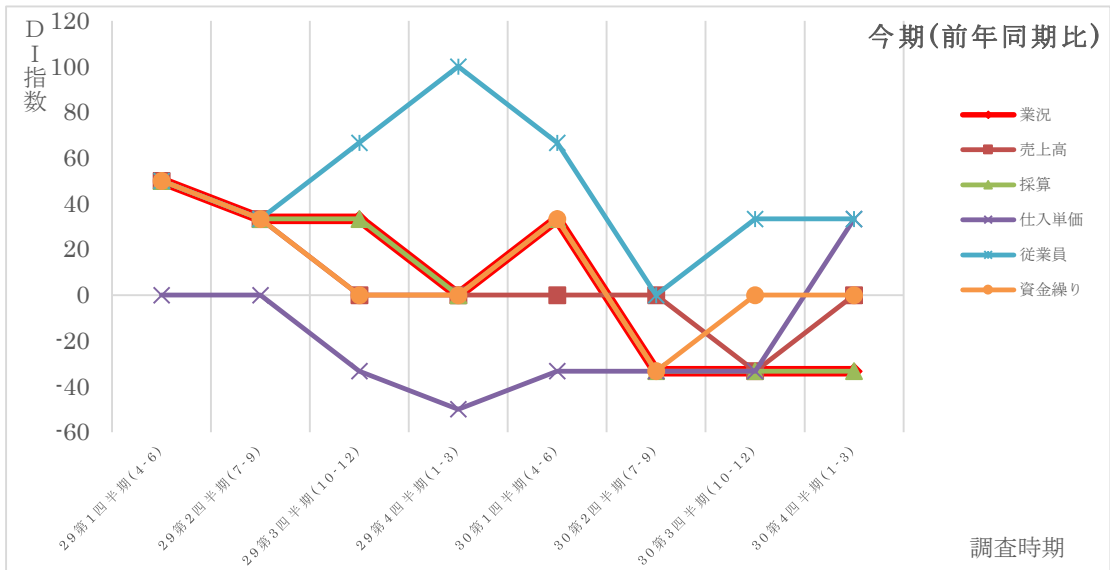
製造業



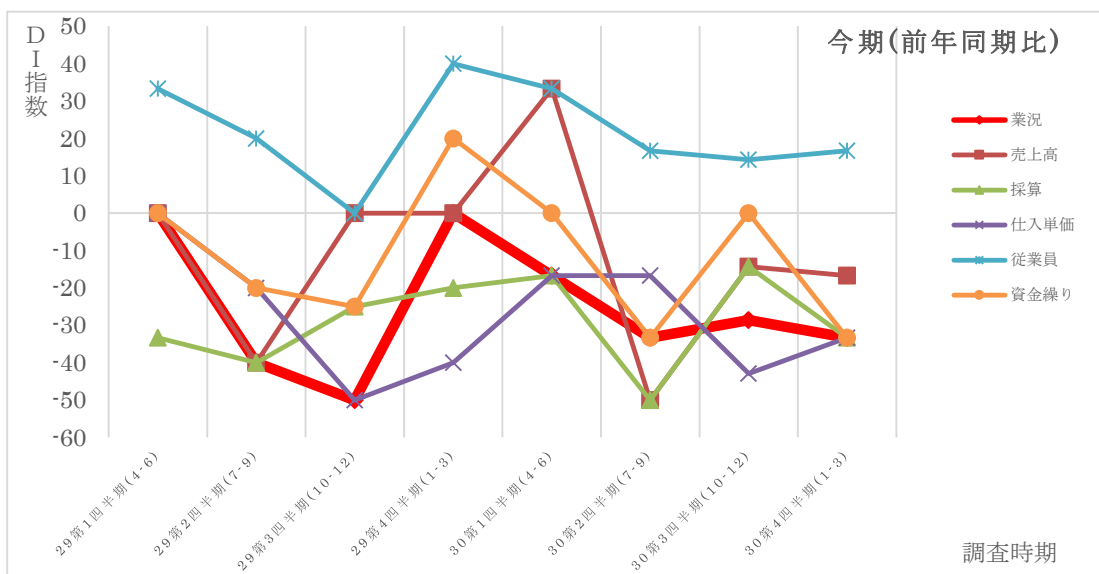
建設業



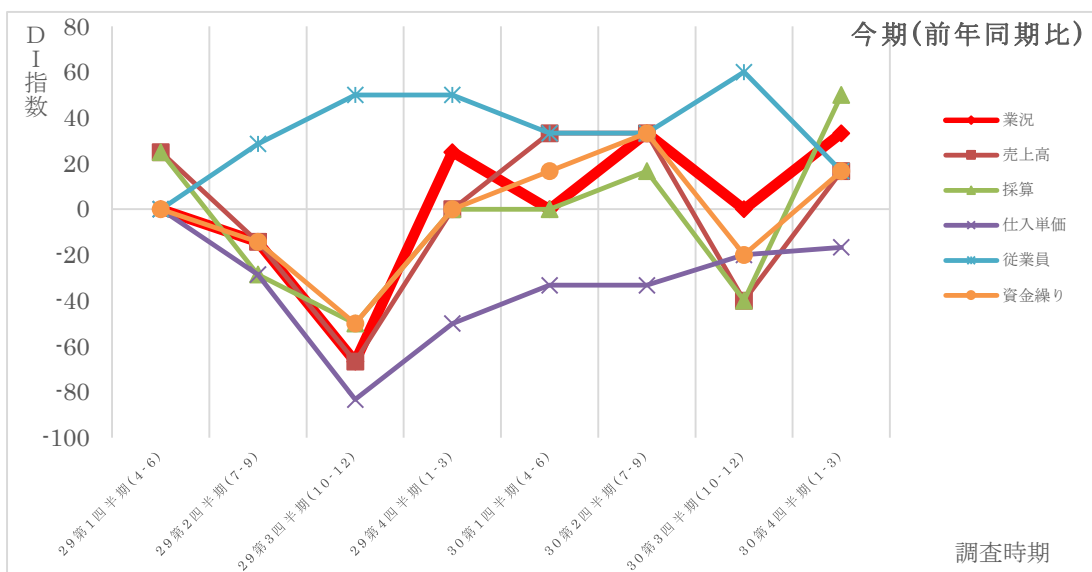
卸売業



小売業



サービス業



【業況感等コメント】

- 少子高齢化、若者のアルコール離れなど市況は縮小、瀬戸芸やゴールデンウィークの観光客の消費を取り込むことに注力する。資材関係は昨年に続き上昇の見込み。 (製造業)
- 鉄骨、特にボルト類が需給逼迫^{ひっばく}している。 (建設業)
- 非住宅市場を中心に昨年の災害により生じた復旧需要が旺盛とあり、10月以降繁忙となり年度末を向かえており、稼働は高い水準である。ただ、地方の景況感は依然として弱い。 (製造業)
- 原材料のコストアップが継続しており減益となっているとともに市況が弱含みであり厳しい状況となっている。また、高齢化、人手不足が深刻で設備投資による生産性アップを進めるしかない。 (製造業)
- 多度津第三工場が4月から稼働することにより、生産性の向上が期待できると思うが材料等の値上がりが大きく原価率の上昇が問題である。 (製造業)
- 不採算部署の効率化により売上以外は改善の見込みである。 (サービス業)
- 建築関連の職人が不足している。職人(大工)の育成支援を。 (建設業)